

3章 「工夫する」

3章は、保育を「工夫する」ことに焦点を当てています。保育者に支えられ、安心して能動性を発揮する子どもたちが、遊びへの思いやイメージを実現しようと試行錯誤したり、興味を広げたり探究を深めたりして夢中になって遊ぶには、「支える」のプロセスの環境構成や援助に加えて、好奇心や探究心の実態に添った保育の工夫が重要になります。

「工夫する」のプロセス

＜園内研修や保育レポートの参考に＞

- ① **子どもたちの遊びへの思いや、イメージの実現につながるように保育を工夫するために、子どもが使いたいイメージできる場やもの、発想に必要な機会や情報を環境に盛り込む。**
↓
- ② **子どもたちの試行錯誤につながるように保育を工夫するために、今までの環境と「類似している」「比較できる」「同じような使い方ができる」など、操作性・可塑性のある環境を再構成する。**
↓
- ③ **子どもたちがじっくりと探究活動ができるように保育を工夫するために、子どもたちの疑問の解明や発見など、対話的で深い学びにつながるものや機会、情報に気づくように環境を再構成する。**
↓
- ④ **興味の広がりや探究の深まりに添って保育を工夫するために、子ども自身が新たに興味を向けていく対象に継続して関わる場や時間を確保し、必要な環境を子どもとともに再構成する。**

※ 上記の実践の具体例（ご紹介している園は本事例集の掲載園です）

- ①： かなおか保育園では、興味をもった絵本から疑問が膨らんだ子どもたちに寄り添い、教材や環境を工夫したり、子どもたちだけでは実現できない試行錯誤の場面を支える工夫をしたりしています。5歳児たちは、水が減ったり、しずくになったりする不思議を体験します。
- ②： 中京もえぎ幼稚園では、近隣の高校の先生をシャボン玉博士として招聘し、「ほんまもの」の体験ができる機会を作っています。（関連事例 P.12）
- ③： ろりぽぷ保育園では、石探しや石集めを楽しむ3歳児たちの興味を捉え、石や宝石の図鑑を用意し環境を工夫します。また、“水晶石ではないか”との発見を機に博物館へ行って専門家の話を伺う機会を工夫することで、探究遊びへと体験が深まっています。
- ④： 第2長尾保育園では、子どもたちと一緒に話し合いを可視化しています。振り返って情報を共有することで、子どもたちから意見や新たな気づき、発想が生まれて興味が広がっています。（関連事例 P.6）



子どもたちは、身近な環境や保育者の援助により、興味をもっていったものとの関わりや遊びを楽しみ、繰り返し関わったり、遊びを継続したりしています。このように、すでに興味や必要感をもった環境や教材を使って遊ぶ子どもたちには、“より遊びが面白くなるような発想や実現に必要な環境”を再構成することが重要です。その工夫のために、保育者も共同作業者となって子どもと一緒に考え合い、大人の予想を超える子どもの発想に寄り添って、実現に向けた園の教育力の向上を図ることが必要です。

そこで、この3章では特に、園の教育力の向上のために、園外の教育力でもあり、子どもにとっては身近な保護者や祖父母、地域の方や施設との連携を工夫している事例を取り上げます。

実践8：野菜ってどこになるの？（思いの実現のための工夫・連携のための工夫）

(P.22)

畑の先生（園児の祖父母）を迎えて、ジャガイモの種イモや野菜の苗を植えた子どもたちは、登園後、遊び始める前の野菜の世話が習慣になります。ある日、4歳児Bさんが、「何だろう？草？」と言うと、5歳児Aさんが、「昨日、なかったよ」と応えました。5歳児は、ここに何を植えたかを保育者に話すうちに、「ジャガイモ」と気づきます。一方4歳児は、「えっ！ジャガイモって葉っぱなの？」と言い、気づいたことを友達に知らせました。

5歳児は発見したことの重要性を感じているので、畑の先生に芽が出たことを知らせ、喜びを共有します。また、保育者は、こうした情報を「はたけだより」として、保護者に発信しています。



実践 9：雪山大作戦（思いの実現・試行錯誤を引き出す環境の工夫） (P.24)

子どもたちにとって、豊かな自然の恵み「雪」。雪遊びを満喫したい**思いに共感する地域の方が子どもたちの願いを聞いて、園庭に雪山を造って下さいました**。作業を見ていた5歳児たちが、園のみんなに雪山作りの様子を知らせました。一人一人が滑って、**自分たちの雪山との“滑り”の違いを実感し、繰り返し楽しめます**。

翌々日、20cmの積雪があり、「俺たちの山、今日は滑らない」「大変だ。どうにかしなくちゃ」「昨日みたいに滑るようにするぞ」と、新雪がこんなにあると滑らないことに気づいたAさんたち。道作りを始めます。

その後も、自然環境と向き合う**子どもたちに寄り添った保育の工夫により、「ソリが曲がってしまうのはどうして？」「ツルツルの氷の斜面はどうする？」**などと、様々な体験を重ねます。



曲がっちゃうー！

実践 10：流れた流れた！（探究活動を引き出す環境の工夫） (P.26)

本実践では、子どもの心を刺激し続ける環境と、**継続的な探究を可能にする様々な環境の工夫**により、子どもたちは考えやイメージの実現を目指して、繰り返し活動しています。このような観点から園舎改築の際に検討を重ね、**子どもたちの探究心を刺激し、ワクワクするような園庭にするために、『可塑性のある構造』となるように設計、再構築し、保育を行って来ました**。保育者はもちろん、子どもも保護者も一体となって改造した園庭で、様々な遊びが繰り返されます。

特に、園庭改造で「土」と向き合った子どもたちは、遊具を使って、ダイナミックに土や砂、水を流す遊びを繰り返すようになりました。**土質や粒の細やかさなどの違いに気づき、繰り返すことで様々な学びをしています**。



もっと流してみよう

実践 11：やってみよう！（思いの実現・興味の広がりを引き出す環境の工夫、記録の工夫） (P.28)

子どもの姿を、写真やコメントで記録にまとめることで、言葉では伝えきれない表情や体の動きなどが伝わる内容になります。制作する保育者が、子どもの理解を深めるだけでなく、**保育者間や保護者と子どもの姿を共通理解する手段として有効な記録**になります。本実践は、**その後の環境の工夫につながりました**。

記録からは、積み木を積み上げる面白さを味わった2歳児が、**環境の工夫により、翌日は興味が広がり、ままごと用具の鍋などを次々と重ねて遊び、形や大きさ、重さや高さなどを感じながら、いろいろなモノに関わる豊かな体験を楽しむ姿が読み取れます**。



園内研修のための「工夫する」をご紹介！

ここでは、子どもたちの興味の広がりや探究の実態に添った環境の工夫や、園外の教育力でもあり、子どもにとっては身近な保護者や祖父母、地域の方や施設との連携に関する工夫を取り上げます。

- ・ **掲示** …… 共通の目的や課題をもって子どもたちが相談したり情報交換したりできる可動性のあるボードや棚、自分たちで表現できる掲示コーナーなどを工夫する。また、園の関係者の方と園の情報が共有できる園舎、園庭の掲示などに子どもたちが関われるように工夫する。
- ・ **地域環境** …… 子どもたちにとって身近な人的環境・物的環境を園の教育力として保育に取り入れる。子どもたちが、必要な情報や教材などを自分たちで獲得できるように、興味や活動範囲を広げる工夫をする。(関連事例 P.36)
- ・ **連携** …… 子どもたちの目的や探究、興味に添って継続する連携になるよう、子どもの実態や言葉を連携の対象になる地域の方や専門家、施設、教育機関等に発信するツールを工夫する。また、子どもが直接関わる場面を大切に、必要な情報が子どもに伝わるように工夫する。保育者と交流の対象（保護者、地域の施設や専門家、小中学校などの教育機関）が、相互に情報を共有する。最後に、丁寧に振り返りをし、事後の情報・意見交換を行う。